

筑北三村地域自立支援協議会 部会・プロジェクト議事録

部会・プロジェクト名 第3回 暮らし部会	開催日:令和 8 年 2 月 12 日(木) 時間:13:00~15:00 場所:ちくほくシャインカレッジ 6 年生教室
参加者・構成機関名 8 名参加 生坂村健康福祉課(リーダー竹内) 筑北村住民福祉課(清水) 麻績村住民課(サブリーダー/居住環境整備プロジェクトリーダー高野) キノネアク相談所(小泊) ちくほくシャインカレッジ(鈴木) 鹿教湯三オ山リハビリステーション(山田) 事務局(藤澤) 長野大学実習生	
次第 1 報告事項 2 当事者ご家族との意見交換 3 今年度のふりかえりと今後	

1 報告事項 1) 居住環境整備プロジェクト報告 ・ 「暮らしの意向調査アンケート」を三村 20 名を対象に実施。現在一人暮らしをしている人を除くと将来的にはグループホーム入居を希望だった。他、「移動支援」、「障がいの 理解」、「相談できる人」が必要との回答だった。今年度他圏域(大北圏域、長野市)で行っている同様のアンケートと共通した結果になっている。 ・ 「グループホームに入りたいか」と問われても、本人も家族も具体的なイメージが湧き難い。筑北三村にあるグループホームに今回のアンケート対象者含め見学等を行う等、事業者への働きかけや地域としての協力体制の検討を進め、意見・感想を取りまとめ、プロジェクトを一区切りとし、暮らし部会へ報告予定。 2) 第3回障がい者相談支援体制等機能強化会議 ・ 諏訪圏域の事例報告では、年数をかけてワーキンググループ等で緊急や一人暮らし等の事業整備を行っていた。その後、グループになり他圏域と情報交換や「登録事業所を増やす工夫と連携強化の工夫」「平時の体制整備と緊急時の体制整備」の 2 テーマで話し合った。委託先事業所により感染を理由に断られたりするが、断らない事業所との契約や高齢施設でも利用ができるように勧めている地域等の共有があった。 3) 地域生活支援拠点等整備事業プロジェクト (R7 年 12/19) ・ プロジェクトでは参加したプロジェクトメンバーが「受け入れ事業所の拡大」と「医療型福祉施設の検討」についてグループに分かれ話し合い共有。 ・ 事業はサービス利用者でも緊急時に利用可出来る等要綱改定があり使い易くなっている。 ・ ショートの体験や台帳整備をする中で緊急にならない日頃からの関わり等。	
2 当事者ご家族との意見交換(現在確認、加修依頼中。5 日までに連絡あり) 高野羊子さん (山ぼうし保護者会長 家族会すまいるファミリー会員) 現在 20 歳の次男に障害がある。手術の経験もある小学校では専任の先生が付き支援級を設置してもらった等恵まれたインクルーシブ教育の環境があり感謝をしている。5 年生から特別支援学校	

に進学、現在は2つの事業所を送迎があり利用している。三男も難病を発症し投薬をしている。兄弟の関係が難しい時期もあったが、今は優しい。

将来の不安は親亡き後の住まい。地域内に選択肢が少ないことや今の通所先事業所は保護者運営や人材不足等に課題がある。地域で暮らす意義は顔なじみの存在や住み慣れた地域であり買い物ができたりする。兄弟にお願いできるものではなく、地元で暮らせるようになって欲しい。

障がい者の力を発揮できることもある。今後、高齢者施設との共生型の施設など検討をお願いしたい。

3 今年度のふりかえりと今後

- ・ 障がい理解と地域で暮らし続けるための体制整備等の協議を行った。台帳整備に関しては来年度、行政と基幹センターで勧めることになっている。
- ・ 地域生活支援拠点等事業等、制度や事業の周知不足や障がい理解等、圏域で共通した地域課題になっている。共生型施設の検討など協議内容が重なる共生部会と合同部会開催の検討。